

P.42 色鉛筆で描く

感情を描く - 溶かしてほかす色鉛筆で表現してみよう -

概要 (めあて、学びの目標を含む)	○心の中の感情を、溶き油で溶かしてほかす色鉛筆により、形や色彩で表現する。 ・心に残る最近の出来事から、形や色彩で表現する感情のイメージを膨らませる。 ・形や色彩と感情との関係について考え、感情をどのように表現するか構想する。 ・構想を基に、ぼかしやグラデーションなどの表現効果を活用し、溶かしてほかす色鉛筆で描く。 ・制作を振り返り、作品のよさや工夫、改善すべき点について考える。
評価規準	知形や色彩が感情にもたらす効果や、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 技溶かしてほかす色鉛筆の特性を生かすとともに、意図に応じて表現方法を追求して創造的に表している。 発感情など心の世界を基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え表現の構想を練っている。 鑑造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 感感情など心の中の世界から発想し、構想して描く表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

■主な準備物

【生徒】・色鉛筆（油性のもの、クーピーなどでもよい）

【教師】・画用紙(作品用+パレット用、A5程度) ・溶き油(テレピン油か筆洗油を油差しに入れて使用) ・綿布(ウエス、ガーゼ) ・マスキングテープ

■学習の流れ(①～②は P.42)「短時間でつくる感情や感じ取ったイメージを、溶かしてほかす色鉛筆で表現してみよう」に対応

段階	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入 10分	○特に心に残っている最近の出来事などから、表現する感情を決める。 ○形や色彩と感情の関係について既習の色彩などの学習を振り返り、考える。	○最近の具体的な出来事などから、その時の感情について、下記◆指導のポイントも参考にイメージさせる。 ○【形】P.18▶構成美の要素 【色彩】P.5▶色の調子(トーン)やP.6▶配色の工夫、P.8・9▶暮らしの中の色などを参照させる。	態	【発言・活動の様子】及び【ワークシート】
展開 35分	○P.42▶短時間でつくる感情や感じ取ったイメージを～を参照し、制作手順を確認する。 ○制作用紙のまわりの余白部分にマスキングテープを貼る。 ①表現する感情をイメージし、粉が出るくらい濃く、パレット用紙に色鉛筆を塗り付ける。 ②指に巻き付けた綿布に溶き油をしみこませ、①の色鉛筆の粉を拭き取り、表現する感情との関係を意識し、制作用紙の画面にこすりつけて描く。 ○その後①～②を繰り返し描き進める。	※指導にあたっては、P.42▶に示した注意事項について確認するとともに、化学物質過敏の生徒などにも留意して指導する。 ○制作用紙をはがきサイズ程度にする場合は縁無しにしてもよい。 ○表現意図に応じ、パレット用紙上での混色や作品用紙上での重色などを活用した、「ぼかし」や「グラデーション」など表現の工夫を促す。 ○発展的に、消しゴムで消す、色鉛筆やアクリル絵の具で加筆、画用紙を切ってステンシルの型紙のようにする(P.12▶)形や色をイメージにを参照)表現なども可能。	態 発 技	【活動の様子】 【制作中の作品】 【活動の様子】及び 【制作中の作品】
まとめ 5分	○作品に題名を付ける。 ○描いた形や色彩と感情との関係を振り返り、工夫や改善すべき点について考える。	※短時間の題材であっても、「発想→構想→表現→振り返り」(PDCAの検証)の機会は設けたい。	態 知 鑑	【活動の様子】 【ワークシート】 【ワークシート】

◆指導のヒント

本題材は、1時間の授業としているが、2時間での授業展開が可能な場合は、作品を1枚制作した後にさらに工夫や改善すべき点を考えさせ、複数枚の作品制作を実施したり、まとめとして相互鑑賞や意見交換の時間を設けたりすることも考えられる。

◆指導のポイント

「感情を表す」と言っても、ピンと来ない生徒も多い。以下のような「感情を表す言葉の例」なども参考にイメージさせる。

愉快	喜び、楽しい、幸せ、満足、安心、ワクワク
恐れ	心配、不安、モヤモヤ、つらい、恥ずかしい
怒り	イライラ、うんざり、不満、嫉妬、失望
不愉快	がっかり、憂鬱、苦しい、痛い、嫌悪、いやいや
悲しみ	悲しい、情けない、しんみり、むなしい、後悔

〔ワークシートの例〕

「感情を描く」
表現する感情

その感情は具体的にどのような場面でのように感じたか

組 名前

描いた「私の感情」の
題名：

工夫したところ
制作して感じたこと

うまくいかなかったこと
改善点